

実用数学検定 1 級 第 197 回 1 次検定

平成 22 年 12 月 14 日

はじめに

拙稿は私が個人的に趣味で作成した数検の解答案にすぎません。完璧なはずがありません。拙稿で勉強しようなどと横着なことはせず、然るべく教科書で本物の数学を学び、各自数検に挑むようにして下さい。利用の仕方は自由ですが、全て閲覧者の自己責任でお願い致します。

問題 1. ★★

正の整数 x, y に対して

$$331 = x^3 - y^3$$

を満たす x, y の値を求めなさい.

《解答》

$331 = (x - y)(x^2 + xy + y^2)$ より, $x - y$ が 331 の約数と分かるが, これを探しても見つからない. 仕方なく $x - y = 1$ としてみると,

$$(y + 1)^3 - y^3 = 331$$

$$y^2 + y - 110 = 0$$

$$y = 10$$

よって, $(x, y) = (11, 10)$.

問題 2. ★★

次の式を係数が整数の範囲で因数分解しなさい。

$$x^6 - 14x^4 + 17x^2 - 4$$

《解答》

$x^2 = X$ とおき,

$$\begin{aligned}(\text{与式}) &= (X - 1)(X^2 - 13X + 4) \\ &= (x + 1)(x - 1)(x^4 - 13x^2 + 4)\end{aligned}$$

まではすぐに分解できる。3つ目の括弧があやしいので,

$$x^4 - 13x^2 + 4 = (x^2 + ax + b)(x^2 + cx + d)$$

とおいて、係数比較すると

$$\begin{cases} a + c = 0 \\ ac + d + b = -13 \\ c(-d + b) = 0 \\ bd = 4 \end{cases}$$

が分かる。これを解くと,

$$(a, b, c, d) = (-3, -2, 3, -2)$$

となる (一意的には決まらない)。故に

$$(x + 1)(x - 1)(x^2 - 3x - 2)(x^2 + 3x - 2)$$

問題 3. ★★

次の級数が収束するような実数 x の範囲を求めなさい.

$$\sum_{n=1}^{\infty} \frac{3^n}{\sqrt[3]{n}} x^n$$

《解答》

収束半径の知識から,

$$\frac{3^{n+1}}{\sqrt[3]{n+1}} x^{n+1} / \frac{3^n}{\sqrt[3]{n}} x^n = \frac{3x}{\sqrt[3]{\frac{n+1}{n}}} \rightarrow 3x \quad (n \rightarrow \infty)$$

を計算し, $|x| < 1/3$ のとき収束することが分かる. $x = \pm 1/3$ のときは個別に調べる必要があり, $x = 1/3$ のとき,

$$\sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{\sqrt[3]{n}} > \sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{n}$$

右辺が発散することから, 元も級数も発散する. $x = -1/3$ のとき,

$$\begin{aligned} \left| \sum_{n=1}^{\infty} \frac{(-1)^n}{\sqrt[3]{n}} \right| &= \left| \sum_{k=1}^{\infty} \frac{1}{\sqrt[3]{2k}} - \frac{1}{\sqrt[3]{2k-1}} \right| \\ &= \sum_{k=1}^{\infty} \frac{1}{\sqrt[3]{2k-1}} - \frac{1}{\sqrt[3]{2k}} \\ &< \sum_{k=1}^{\infty} \frac{1}{\sqrt[3]{2k-1}} - \frac{1}{\sqrt[3]{2k+1}} = 1 \end{aligned}$$

より, 元の級数の収束が分かる. 収束範囲は $-1/3 \leq x < 1/3$.

問題 4. ★★

3次正方行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 4 & -1 \\ -2 & 2 & 0 \\ 0 & 3 & -3 \end{pmatrix}$ の固有値をそれぞれ $\lambda_1, \lambda_2, \lambda_3$ とするとき、次の間に答えなさい。

1. $\lambda_1 + \lambda_2 + \lambda_3$ の値を求めなさい。
2. $\lambda_1^2 + \lambda_2^2 + \lambda_3^2$ の値を求めなさい。

《解答》

行列の固有多項式 $|A - \lambda E|$ は、

$$\begin{aligned} |A - \lambda E| &= \begin{vmatrix} 1 - \lambda & 4 & -1 \\ -2 & 2 - \lambda & 0 \\ 0 & 3 & -3 - \lambda \end{vmatrix} \\ &= -\lambda^3 - \lambda - 24 \end{aligned}$$

なので、 $\lambda_1, \lambda_2, \lambda_3$ は、 $x^3 + x + 24 = 0$ の解と考えられる。解と係数の関係より

$$\begin{cases} \lambda_1 + \lambda_2 + \lambda_3 = 0 \\ \lambda_1\lambda_2 + \lambda_2\lambda_3 + \lambda_3\lambda_1 = 1 \\ \lambda_1\lambda_2\lambda_3 = -24 \end{cases}$$

これを利用すると、

$$\begin{aligned} \lambda_1^2 + \lambda_2^2 + \lambda_3^2 &= (\lambda_1 + \lambda_2 + \lambda_3)^2 - 2(\lambda_1\lambda_2 + \lambda_2\lambda_3 + \lambda_3\lambda_1) \\ &= -2 \end{aligned}$$

問題 5. ★★★

2 個のさいころ A, B があります. これらは立方体の形をしており, それぞれのさいころの各面について

A のさいころには, $-4, -2, 0, 2, 4, 6$

B のさいころには, $-8, -5, 2, 4, 5, 8$

の数字が書かれています. これら 2 個のさいころを同時に 1 回だけ振るとき, 出る目の数の和を X とします. このとき, 次の問に答えなさい. ただし, それぞれのさいころについて, 各面の出る確率はすべて $\frac{1}{6}$ であるとしします.

1. X の平均 (期待値) を求めなさい.
2. X の分散を求めなさい.

《解答》

全ての場合を考えると, 各面が 6 回ずつ出るので, 全ての数字を合計し 6 で割れば, 期待値を得る. $E(X) = 2$.

続いて分散は $E(X^2) - E(X)^2$ を利用して, 面倒だが X^2 の値を全て足し合わせる.

$$E(X^2) = \frac{1}{36} \{ (144 + 81 + \dots) = \frac{143}{3} \}$$

よって, 分散は $V(X) = \frac{143}{3} - 4 = \frac{131}{3}$.

問題 6. ★★★★★

次の定積分を求めなさい.

$$\int_0^{\pi/2} \sqrt{\tan x} dx$$

《解答》

$t = \sqrt{\tan x}$ とおくと, $\frac{dt}{dx} = \frac{1}{2\sqrt{\tan x}} \cdot \frac{1}{\cos^2 x}$ で,

$$\begin{aligned} (\text{与式}) &= \int_0^{\infty} t \cdot 2t \cdot \cos^2 x dt \\ &= 2 \int_0^{\infty} \frac{t^2}{t^4 + 1} dt \end{aligned}$$

となり, 第 137 回の問題 7 を思い出し,

$$\frac{x^2 + 1}{x^4 + 1} = \frac{1}{2} \left(\frac{1}{x^2 + \sqrt{2}x + 1} + \frac{1}{x^2 - \sqrt{2}x + 1} \right)$$

を使えば解けそうだが, ここでは留数定理を使ってしまおう.

$$\begin{aligned} 2 \int_0^{\infty} \frac{t^2}{t^4 + 1} dt &= \int_{-\infty}^{\infty} \frac{t^2}{t^4 + 1} dt \\ &= 2\pi i \sum_{j=1}^2 \frac{a_j}{4a_j^3} \\ &= \frac{\pi i}{2} \left(\frac{1}{1/\sqrt{2} + 1/\sqrt{2}i} + \frac{1}{-1 + 1/i} \right) \\ &= -\frac{\pi i}{2} \cdot \sqrt{2}i = \frac{\pi}{\sqrt{2}} \end{aligned}$$

ただし, a_j は $t^4 + 1 = 0$ が上半平面に持つ根.

問題 7. ★★★

次の微分方程式を解きなさい.

$$\frac{dy}{dx} - 4y = \sin 2x$$

《解答》

まず, $\frac{dy}{dx} - 4y = 0$ を解くと, $y = ce^{4x}$ が得られる. $y = u(x)e^{4x}$ として, 元の微分方程式に代入すると,

$$\begin{aligned} u'(x)e^{4x} + 4u(x)e^{4x} - 4u(x)e^{4x} &= \sin 2x \\ u'(x) &= e^{-4x} \sin 2x \end{aligned}$$

を得る. $u(x)$ を求めるために $u(x)$ を虚部に持つ複素関数

$$V(x) = v(x) + iu(x)$$

を導入し, 微分作用子の線型性を考慮し,

$$\begin{aligned} V'(x) &= v'(x) + iu'(x) \\ &= e^{-4x} \cos 2x + ie^{-4x} \sin 2x \\ &= e^{(-4+2i)x} \end{aligned}$$

を解く.

$$\begin{aligned} V(x) &= \frac{e^{(-4+2i)x}}{-4+2i} \\ &= \frac{e^{-4x}}{20} (\cos 2x + i \sin 2x)(-4-2i) \\ &= \frac{e^{-4x}}{20} \{(-4 \cos 2x + 2 \sin 2x) + i(-4 \sin 2x - 2 \cos 2x)\} \end{aligned}$$

この虚部が $u(x)$ であったので,

$$\begin{aligned} u(x) &= \frac{e^{-4x}}{10} (-2 \sin 2x - \cos 2x) + C \\ \therefore y &= \frac{1}{10} (-2 \sin 2x - \cos 2x) + Ce^{4x} \end{aligned}$$